

社会科学習指導案

平成18年10月27日（金曜日） 第5校時（13：30～14：20）

桐生市立梅田中学校 2年A組 体育館 指導者 池田 雅彦

授業の視点

生徒の作成した複数の資料を比較し関連付けて考察することは、日本の人口分布の偏りに気づかせるうえで有効であったか。

I 題材 人口の特色をとらえよう（単元 世界と比べてみた日本）

1 考察

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領の内容(3)「世界と比べてみた日本」の中項目「ア 様々な面からとらえた日本」の小項目「(イ) 人口から見た日本の地域的特色」に当たる。

この単元では、今まで修得してきた世界と日本の諸地域に関する地理的事象を再構築し、世界や日本の地理的認識を深めるのに必要な基礎・基本を身に付け、地理的な特色を端的にとらえる学習になる。そして、世界と日本を比較し、関連付けて国土の特色を大観させる。また、地理的事象を見いだしていく学習の過程で、地理的技能の向上を図り、主体的な学習を促していく事のできる教材である。

世界の人口は人口爆発といわれる人口の急激な増加が見られる。しかし、人口の分布を見てみると、実は、急増は世界全体の現象ではなく、アジア、アフリカなどの地域に見られ、欧米諸国では、微増、もしくは減少傾向にある。また、人口構成も増加現象が見られる国では、年少人口の割合が高く、微増・減少傾向の国では、高齢人口の割合が高い。この現象は、前者は発展途上国、後者は先進国に共通してみられるものである。

世界的視野から見ると、日本は人口が1億人を超える数少ない国であり、また人口密度も高い。日本全体が人口集中地域になっているが、人口分布図を見ると、平野部に多くの人口が集中し、過密・過疎地域がみられる。過密地域の生活、過疎地域の生活、過密・過疎による諸問題へのそれぞれの取り組みと人間の営みに結び付けて考察・追究していける題材である。

学習する中で、本題材は、人口の面から日本の特色を追究し、理解させることをねらいとしている。世界から日本、そして地域へと学習を進めることで、地理的事象の規則性や傾向をとらえ、一般的共通性を見いだしていくことができる。そして、そこで得た一般的共通性を他に当てはめて考えることができる。また、学習の過程で、統計資料の活用、統計資料の地図化・グラフ化により、地理的事象の分析・解釈に必要な地理情報を導きだすことができる。

このようなことから、地理的技能の向上を図り、地理情報を基に地理的事象を多面的・多角的に検証していくことにより、地理的な見方や考え方を深めることができる。この一連の活動を繰り返すことによって、地理的技能と地理の見方や考え方は、相互補完して高まっていくと考える。また、この題材は、人口の推移や人口の分布から、人口の増加・減少の原因を追究する姿勢をもたせ、日本や世界の課題に真剣に向かい、その解決を探ろうとする姿勢や態度を養うのにふさわしい題材であると考えられる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

人口に着目し、世界的視野から見た日本の地理的特色、日本全体の視野から見た諸地域の特色を見ることにより、見通しを持ち、意欲的に学習を行うことができる。また、新聞記事などの身近な資料から、世界の人口爆発や日本の人口減少社会、少子高齢化などの社会問題に関心をもたせやすい題材である。

【社会的な思考・判断】

世界の人口では、発展途上国と先進国の人口構成や生活の比較、日本の人口では、年齢別人口、産業別人口などによる、地域間や年代間の比較、過密地域・過疎地域から人口の違いによる生活の比較と日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察することが可能な題材である。「比較」という活動により、地理的事象の共通性や一般性を見いだす考察力を身に付けさせられる。世界から日本、そして地域へと学習を進めること

で、見方や考え方を生かし、身近な事象を広い視野から公正に判断する能力や態度を身に付けさせられる。

日本は人口密度が高く、平野部に人口が集中し、過密・過疎地域が見られ、少子高齢化に伴う課題を抱え、解消の努力に取り組んでいる。このような日本の特色や諸地域の特色を人間の営みと関連させて、考えて判断する力を身に付けさせる。

人口という1つの面から、日本や世界の諸地域を追究していくことから、様々な力を付けることで地理的な見方や考え方を育てるのに適した題材であると考ええる。

【資料活用の技能・表現】

人口について、人口総数、人口増加率、人口分布、人口密度、人口構成、産業別人口などと様々な視点から調べ、地理情報を収集する力を付けることができる題材である。「地理情報の活用に関する技能」の向上として、統計資料のグラフ化、人口ピラミッドなどの統計資料の作成、新聞記事や生活からくる知識や情報を地理情報化し、人間の営みを裏付ける活動を取り入れることができる。「地図の活用に関する技能」の向上として、人口密度や人口分布を地図に記入し、規則性や傾向を見出す活動を取り入れることができる。このように特徴や特色が読み取れる形に加工処理して、地理情報を得る方法を身に付けることで、「地理的技能」が育つと考える。

変化や傾向を見いだすため、年代ごとの人口密度を比べたり、年代別の人口ピラミッドを比べたり、また、産業別人口を組み合わせて、様々な統計資料の組み合わせ、新たな地理情報を導く力を身に付けさせる。さらに、自分の考えを筋道立てて伝達していく力を付けさせる。

以上のような資料活用の機会を多く盛り込むことができ、「地理的技能」を育てるのに適した題材であると考ええる。

【社会的事象についての知識・理解】

世界の人口問題を人口が急増している発展途上国と人口が停滞している先進国とを比較して考えさせる。また、人口構成から、それぞれが抱える人口問題を類型化できる力を付けさせる。日本の人口構成が、急速に少子高齢化に向かっていることと、少子高齢化に伴う弊害を合わせて理解させることができる。日本の人口分布には偏りがあり、人口密度や人口の増減、人口構成は地域によって様々な違いがあり、各地域が、いろいろな問題を抱えていることを理解させられる。過密地域の特色と過疎地域の特色を比較させながらとらえさせると共に、それぞれの地域で抱える問題点の把握と解決を様々な角度からとらえ、より豊かな生活を実現するために努力をしている人間の営みに結び付けて理解させることができる題材であると考ええる。

(2) 研究主題とのかかわり

関ブロ群馬大会研究主題「確かな学力を育てる社会科教育の展開」

－基礎・基本を確実に身に付け、社会的な見方や考え方を育む授業の創造－

「社会科の基礎・基本」

社会的事象の特色や意味を明らかにするために、自ら課題を見だし、自ら追究し、よりよく解決しようとする際に必要な知識・技能・態度・学び方。

○本題材における基礎・基本とのかかわり

・「課題解決的な学習」の導入。

① 課題発見能力 【世界から日本、そして地域へ】の学習過程で、既得知識を転移することによって、課題を設定して進めていく。

② 問題解決能力 【プロセス・計画・論理的思考・分析・解釈】と筋道を立てて追究していく。必要な統計資料の選択・地理情報の収集や話し合い・発表の活動を取り入れる。

社会的な見方や考え方（方法面）

- ・社会的事象を動的に見たり、共通性や一般性、因果関係等をとらえたりする見方や考え方。
- ・身に付けてきたことを他の社会的事象に適用させていく見方や考え方。
- ・よりよい社会のあり方を創造する見方や考え方。

地理的分野研究主題

「地理的技能を身に付け、地理的な見方や考え方を育てる指導の工夫」

○本題材における地理的分野の研究主題とのかかわり

・「地理的技能」の向上

① 地理情報の活用に関する技能

統計資料のグラフ化、人口総数・人口密度・人口分布などの統計資料の活用や人口ピラミッドの作成と読み取りを取り入れる。

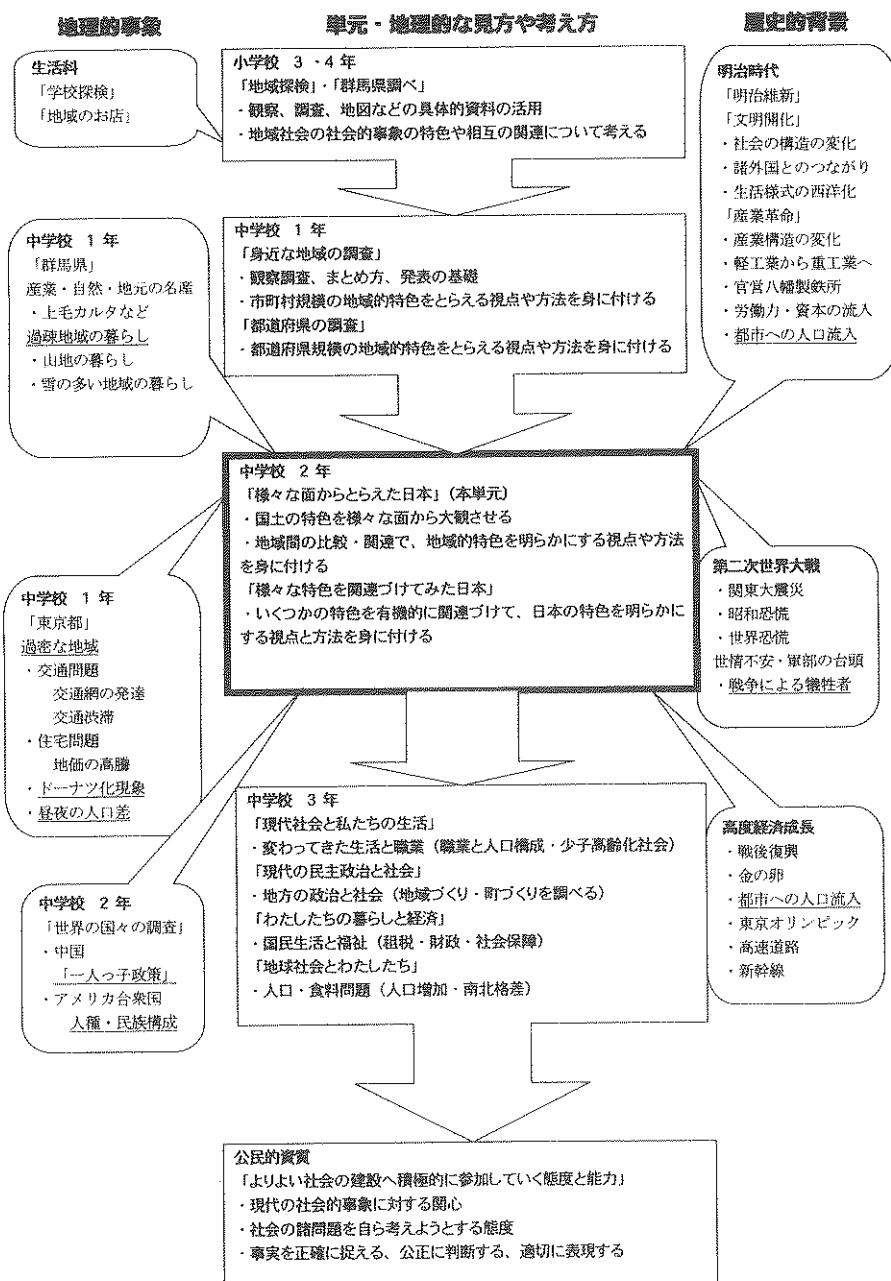
② 地図の活用に関する技能

人口増加率や人口密度を地図に記入していくなどの統計資料の地図化、人口分布図の読み取りを取り入れる。

・「地理的な見方や考え方」を育てる

人口増加と分布図を組み合わせ、人口の偏りを見いだす。それを世界から日本、そして地域へと転移する。人口ピラミッドの類型化をする。過密地域と過疎地域を比較することによって、傾向を読み取り、それぞれの生活や抱えている諸問題をとらえ、人間の営みを浮き彫りにする。

(3) 教材の系統



(4) 生徒の実態

【社会的事象への関心・意欲・態度】から見た生徒の実態

世界の人口は、漠然と「多い」という事はとらえている。「世界の人口がこのまま増加するとどうなるか」という問いでは、「住む場所がなくなる」「食糧不足」「資源不足」「温暖化」などを挙げている。「日本の人口減少について」の問いでは、「子どもを産まない」「産めない社会状況」を挙げている生徒もいた。生徒は断片的知識はあるが、日本が人口減少に転じている国、過疎や過密の問題、少子高齢化の問題を抱えている国であるという認識は薄い。

「都市（人口の多いところ）と地方（人口の少ないところ）のどちらに住みたいか」の問いでは、地方と答えた生徒が多かった。都会は「楽しそう、仕事がある」という理由、地方は「静か、自然がある」という理由と都会の否定的見方「ゴミゴミしている、狭い、空気が汚れている」という理由があった。感覚的な理由が目立つ。

「人口の調べたい事」の間では、「人口の多い（少ない）国、密度、男女比」など人口の現状と「人口の増加の理由、人口の増減の理由、人口の増えている国」など理由を調べたいという生徒もいた。

【社会的な思考・判断】から見た生徒の実態

比較的覚えることにはよく取り組むが、「なぜ?」「どうして?」などの因果関係をとらえる学習には積極的に取り組まない生徒が多い。そのため、理由を問う問題や説明を求める問題を苦手とする生徒が多い。CRT学力検査においても、思考力・判断力が十分に達成されていない状況である。

中華人民共和国の学習において、統計資料を組み合わせる設問でも、1つ1つの資料の解説については可能だが、組み合わせる読み取る力が、まだない生徒が多い。また、組み合わせると全く違う判断をしてしまう生徒もいた。

統計資料によるデータを読み取ったり、比較したりすることを苦手とする傾向にある。複数の資料を関連付けて考察するなどの多面的・多角的にとらえる学習を取り入れていく必要がある。

【資料活用の技能・表現】から見た生徒の実態

複数の資料を組み合わせる新たな地理情報を導きだせる生徒は少ない。事前調査の地形図の読み取りや地図記号などの基礎問題では、正答率が半分以下の生徒が多い。また、統計資料のグラフ化では、帯グラフ・折れ線グラフ・円グラフ・棒グラフと作成した。比較的一生懸命取り組んでいたが、多い順にしたり、四捨五入などの細かなデータ処理が不十分な生徒が多かった。表現では、データは読み取れていると思われるが、適切な表現ができない。

【社会的事象についての知識・理解】から見た生徒の実態

習ったことを覚えようとする生徒は多いが、断片的知識にとどまり、理解にまでは至っていないことが多い。そのため、文章で答える問では、面倒と言うこともあろうが、無回答が目立つ。

2 目標

人口や人口分布に関する諸問題に関心をもち、地域の特色を明らかにする視点や方法を身に付け、環境条件や人間の営みを関連付けて考察する力を養う。

3 評価規準 全7時間【 】内の○数字は、対応時間（本時は③）

関心・意欲・態度	題材の評価規準	
	人口や人口分布に関連する諸問題に関心をもち、「人口」を切り口に、積極的に世界や日本の国土や諸地域の特徴をとらえようとしている。	
	評価規準	I 世界や日本の地理的事象を「人口」を通して探ろうとしていれば「B」。意欲的に最後まで取り組めれば「A」。【①～⑦】 II 人口の分布の違いを知ろうとしていれば「B」。さらに、人口の分布の違いからくる特色や諸問題をとらえようとするれば「A」。【④】
評価の方法	積極的に意見を言えたか、持続的に取り組めたか全体を通して評価。	

題材の評価基準	
思考・判断	世界と日本を、また国内の諸地域を、それぞれ比較し、環境条件や人間の営みに関連づけて地域的特色を多面的・多角的に考察している。
	評価基準 I 発展途上国と先進国、年齢別人口、産業別人口、過疎と過密を比較してとらえれば「B」。さらに、環境条件や人間の営みと関連させて考察できれば「A」。【①②】 II 人口に関連する諸問題をとらえれば「B」。さらに、原因と解決に言及すれば「A」。【⑤～⑦】
評価の方法	ワークシートへの記述や観察から評価。
題材の評価基準	
技能・表現	人口の変化のグラフや人口ピラミッドの作成、各種の統計資料の地理情報化を図り、日本の国土や地域的特色をまとめる技能を身に付けている。
	評価基準 I 人口ピラミッドの作成ができれば「B」。さらに、類型化を図り、読み取れれば「A」。【②③】 II 人口に関する様々な統計資料の読み取りができれば「B」。さらに、統計資料を組み合わせて地域的特色を探るのに必要な資料を収集・選択できれば「A」。【①～⑦】 III 人口の分布から人口の集中する地域、人口の流失している地域の共通性をとらえれば「B」。さらに、それらの地域の生活の様子が予想できたら「A」。【⑦】
評価の方法	作成したグラフや分布図、ワークシートの記述、話し合い活動の観察。
題材の評価基準	
知識・理解	世界の人口・日本の人口には分布の偏りがあり、そこから様々な生活の特徴が発生し、それぞれの問題を抱えていることを理解している。
	評価基準 I 発展途上国と先進国の人口ピラミッドの見方が分かれば「B」。人口ピラミッドの違いから原因と生活の様子が言及すれば「A」。【①②】 II 日本の人口構成、産業別人口が読み取れれば「B」。そこからくる問題をとらえ「少子高齢化社会」の重大さが分かれば「A」。【⑤～⑦】 III 過疎地域・過密地域の抱える問題を理解できれば「B」。さらに、日本の人口分布に転移できれば「A」。【⑤～⑦】
評価の方法	ワークシートやノートのまとめ方、学習後の知識理解、生徒の変容。

※A……十分達成している B……おおむね達成しているを表す。

4 指導方針

- 「課題解決的な学習」を取り入れることによって、各種資料から情報の活用を図り、必要な情報を収集し、地理的事象の分析・解釈をしていく。
 - ・世界の人口や日本の人口を広く大観し、共通性や一般性を見いだすため、「世界の人口を知ろう」「日本の人口を分析しよう」など比較的大きな課題を設定する。
 - ・資料提示を増やすことによって、興味・関心を高める。
- 複数の資料やグラフから地理情報を見だし、意見交換をし、共有化を図る。
 - ・課題解決において、作業を取り入れ、「課題」→「作業」→「発見」とする。
 - ・意見の発表の場では、情報の確認やまとめをさせ、発表したままにならないよう留意する。
 - ・「共同作業（同じ作業を複数で行う）」「協同作業（役割分担をして行う）」話し合いの場では、「交流」「共

有」「共感」「理解」とし、より多面的・多角的に考察し、理解を深める。

○人口の変化のグラフや人口ピラミッドの作成、各種の統計資料の地理情報化を図り、日本の国土や地域の特色をまとめる技能を身に付けさせる。

- ・統計資料を地図化・グラフ化することにより、視覚的に見ることの有効性を認知させる。
- ・分布図では「変化の偏り」に着目させ、人口ピラミッドでは「生産年齢人口」に着目させ、「人間の営み」と関連させ考察させる。

○比較し関連付ける活動を取り入れることによって、地理的な見方や考え方を深め、地理情報をさらに多面的・多角的にとらえさせる。

- ・「資料から読み取れること」「資料を組み合わせ読み取れること（変化）」「わかったこと・考えたこと」に整理し、考えさせる。
- ・世界から日本、そして地域へと学習を進め、また日本に戻ることによって、他の地域で見いだした共通性や一般性を転移し、日本全体を大観させる。

○基礎・基本を確実に身に付けさせ、最後まで課題をやり遂げる態度を養う。

- ・一斉学習、個人作業、話し合い活動などを取り入れ、学習形態を工夫する。
- ・「振り返りシート」を活用することによって、毎時間の学習内容を確認する。
- ・生徒による作業進捗の差を解消するため、複数の課題を用意し、早い生徒は複数取り組み、遅い生徒は必ず1つは、やりとげるように工夫する。

5 指導と評価の計画（7時間予定）

(1) 授業の流れ

- 第一次 「課題をつかむ」……………（1.5時間）
 第二次 「課題の追究」……………（2.5時間）
 第三次 「課題の発展」……………（2時間）
 第四次 「課題のまとめ」……………（1時間）

(2) 指導と評価の展開

時 間	主な学習活動	支援および留意点	評価項目と方法
課題をつかむ	(1) 「世界の人口分布と変化」 ・世界の人口分布の特徴と人口増加の様子を理解する。 ・分布図やグラフなどの統計資料から世界の人口に関する傾向を読み取る技術を習得する。	・「人口分布図」「人口密度図」「人口増加グラフ」から傾向や特徴を読み取らせる。（見方） ・それらの資料から、関連性・因果関係を導きださせる。（考え方）	人口分布のグラフの作成と読み取りを通して、世界の人口の変化の特色を明らかにしている。 【関Ⅰ・思Ⅰ】 【技Ⅰ・知Ⅰ】 （観察・資料）
	(2) 「日本の人口の変化①」 ・「人口ピラミッド」の作成の仕方を習得する。 ・「人口ピラミッド」の特徴や日本の人口の特徴を他の国々と比較しながら理解し、追究課題を設定する。	・「人口ピラミッド」から人口構成を読み取らせる。（見方） ・いろいろな国の「人口ピラミッド」と比較し、共通点や相違点から、日本がもっている特徴や抱えている問題を人口を切り口に分析をさせる。（考え方）	人口ピラミッドの作成の仕方の習得、人口ピラミッドの特徴を読み取ることができる。 【関Ⅰ・思Ⅰ】 【技ⅠⅡ・知Ⅰ】 （作業・観察）
課題の追究	(3) 【本時】 「日本の人口の変化②」 ・日本の人口の変化をとらえ、人口の増減、年齢別、男女別の人口構成から日本の人口の特色を理解する。 ・日本の人口の高齢化や少子化について問題意識を持ち、	・日本の人口の変化を読み取らせる。 日本の「人口増加グラフ」「人口密度」「人口増加率」「人口ピラミッド」の変化を読み取る。（見方） ・日本の「人口ピラミッド」の変遷から、日本の社会の変化と特徴を読み取らせる。（考え方）	日本の人口に関する各種資料の作成と読み取りから、日本の人口の変化を明らかにしている。 【関Ⅰ・技ⅠⅡ】 （観察・資料）

		人口の偏りをとらえる。		
	(4)	「日本の人口分布」 ・日本国内の人口の偏りと地形図、太平洋ベルトと関連づけて考える。 ・分布図やグラフなどの統計資料から「人口の大都市圏集中」「人口移動の特徴」などの傾向を理解する。	・「日本の人口分布図」から人口の分布・人口密度の分布を大観させる。 (見方) ・大観したところから、「人口の大都市圏集中」「人口移動の特徴」を読み取らせる。 (考え方)	人口分布図の読み取りを通して、日本全体を大観し、人口分布の特色を明らかにしている。 【関ⅠⅡ・技Ⅱ】 (観察・資料)
課題の発展	(5)	「人口が過密な地域の生活」 ・大阪市を例に人口過密地域の生活の様子・状況と問題点をとらえる。 ・過密都市大阪で抱えている問題点を把握し、課題解決への取組と努力を読み取る。	・各種資料やデータから、人口の多いところでの生活のスタイル、過密地域の生活の様子を読み取らせる。 (見方) ・過密地域では、どのような問題が発生し、過密解消への取り組みについて理解させる。 (考え方)	人口過密地域の特徴を各種資料から読み取り、そこでの生活、問題点や対策を明らかにしている。 【関Ⅰ・思Ⅱ】 【技Ⅱ・知ⅠⅡ】 (観察・資料)
	(6)	「過疎地域の生活」 ・島根県横田町を例に人口過疎地域の生活の様子・状況と問題点をとらえる。 ・過疎地域の抱える諸問題とその背景を理解し、過疎地域の実態と「町おこし」など具体的な対応策を通して過疎への取り組みを読み取る。	・各種資料やデータから、人口の少ないところでの生活のスタイル、過疎地域の生活の様子を読み取らせる。 (見方) ・過疎地域では、どのような問題が発生し、「産業別人口グラフ」、少子高齢化、働き盛りの年齢層の流出や「町おこし」などの取り組みから過疎地域の特徴を読み取らせる。 (考え方)	人口過疎地域の特徴を各種資料から読み取り、そこでの生活、問題点や対策を明らかにしている。 【関Ⅰ・思Ⅱ】 【技Ⅱ・知ⅠⅡ】 (観察・資料)
課題のまとめ	(7)	「過密や過疎に対する地域の取組」 ・過密・過疎の現象は全国各地で見られる共通性のある現象であることを理解する。 ・「生産年齢人口」から、大都市と過疎地域の関連を理解する。	・「過疎地域の分布図」から、分布されている場所と「太平洋ベルト」には分布されていないことを読み取らせる。 (見方) ・大阪市・横田市の「人口ピラミッド」から「生産年齢人口」の違いをとらえ、上の分布図と合わせ、大都市へ流入していることを導かせる。 (考え方)	過疎・過密が生じる原因を相互の関連でとらえ、その対策について考察し、それぞれ豊かに暮らそうとしている姿を明らかにしている。 【関Ⅰ・思Ⅱ】 【技ⅡⅢ・知Ⅱ】 【知Ⅲ】 (観察・資料)

II 本時の学習指導

- 1 目標：日本の人口に関するグラフや資料の作成と読み取りを通して、日本の人口の特色を多面的・多角的にとらえる。
- 2 準備：ワークシート、教科書（中学生の地理・帝国書院）、ノート、掲示資料
- 3 展開

ねらい（時間）	生徒の活動	支援及び留意点・評価項目（方法）
1 「日本の人口」について探るという課題に迫るための作業手順を理解させる。（5分）	課題「日本の人口を分析しよう」を確認する。 ・各班ごとの課題・作業 A・人口増加グラフ B・1935年人口ピラミッド C・1960年人口ピラミッド D・2004年人口ピラミッド E・1950年人口密度図 F・2000年人口密度図 G・1960年人口増加率図 H・2000年人口増加率図	○「日本の人口を分析しよう」という大きな課題を設定することにより、「人口」について、いろいろな角度で、日本の特色をとらえる学習を進めていくことを意識させる。 ○前時に行った各自の「日本の人口」について調べたいことや知りたいことについてのアンケート結果を基に課題を設定し、事前に班分けをしておく。 【関Ⅰ】人口から日本を理解していくという課題の意図を理解し、課題追究について興味や関心をもって取り組んでいる。 (アンケート記述・観察・作業の意欲的な取り組み) (振り返りカード *最後に記入)
2 統計資料のグラフ化・地図化により地理的技能を身に付けさせる。（20分）	活動1 それぞれの班の作業・課題に取り組み、自分が作成した資料を基に得られる地理情報を見いだす。 活動2 A～Hの班内で意見交換し、地理情報の共有化を図る。	【技Ⅰ】資料のグラフ化、人口ピラミッドの作成、分布図の作成ができる。 (観察・資料) 【技Ⅰ】資料のグラフ化、人口ピラミッドの作成、分布図の作成に手間取っている生徒への支援 ・作業ごとに「グラフ化」「人口ピラミッドの作成」「分布図の作成」の修得の段階に応じて支援をしていく。 1・前回のワークシートを見る。 2・手順の確認。 3・具体的指示。
3 統計資料の組み合わせから、新たな地理情報を導く力を向上させる。（15分）	活動3 関係のグループを集め、お互いの地理情報を交換し、新たな地理情報を見いだす。 ○日本の人口増加 (A) ○人口ピラミッドの変遷 (B・C・D) ○人口密度の変化 (E・F) ○人口増加率の変化 (G・H)	【技Ⅰ】資料のグラフ化、人口ピラミッドの作成、分布図の作成が終了している生徒への支援 ・自分の担当の作業が終わったら、他のグループの作業に取り組ませる。 ○時間をなるべく確保し、担当の作業は確実に仕上げさせる。 ○大グループにまとめ、それぞれの班が見いだした地理情報を共有し、新たな地理情報を読み取らせる。 【技Ⅰ】各種の資料を比較・統合し、変化を読み取り、地理情報としてとらえる。 (観察・話し合い) 【技Ⅱ】資料を組み合わせ読み取れていない生徒への支援 ・時代ごと、地域ごとに着目させる。 【技Ⅱ】資料を組み合わせ読み取れている生徒への支援 ・変化の度合いまで読み取らせる。 「日本の人口の特色」をとらえさせるため ・日本の人口の変遷 ・人口構成の変化 ・人口の地域ごとの偏りと動き 3つの視点を意識させ発表を聞かせる。
4 各視点からの発表から、「日本の人口の特色」をとらえさせる。（10分）	各班の発表 「日本の人口の特色」をとらえる。 まとめ 「振り返りカード」の記入	